

高瀬駅の生け花

私は、3年間、電車通勤をしたことがあります。都会では、ごく当たり前のことなのでしょうが、ここ三豊では、マイカー通勤の方が圧倒的に多いと思います。私の40年間の勤務経験の中でも、電車通勤は、たった3年間だけでした。それでも、電車通勤の経験が全く無いという方も、けっこういらっしゃるのではないのでしょうか。まあ、いい経験をしたと思います。

毎朝、高瀬駅から電車に乗って高松駅まで、毎晩、高松駅から高瀬駅までの繰り返しの中で、気付いたことがありました。高瀬駅の改札口を出たガラスのケースの中には、いつ見ても花が生けられています。そして、その花は、枯れていることはないのです。毎日、美しい姿なのです。

そのことを、当時、小学生だった娘に話したことがありました。そして、娘と二人で高瀬駅の、その生け花を見に行ったことがありました。ちょうどその時に、生け花の手入れをされていた方に出会うことができました。その方は、こんなことを話してくださいました。

昔、高瀬駅には、ごみがいっぱい投げ捨てられていました。人は、汚れた場所には、平気でごみを投げ捨てるのです。そのごみを、汽車から降りた学生さんたちが、踏みつけながら歩いていきました。この姿を見た時に、このままではいけないと思ったのです。そこで、近所の方に声をかけ、ごみの掃除をしました。花壇を手入れして花を植えました。そして、ここに、生け花を飾ることにしたのです。

不思議なものです。人は、美しい所には、決してごみを捨てたりはしないのです。それまで、ごみであふれていた高瀬駅は、徐々に、美しい駅へと生まれ変わりました。その時から、私たちは、この活動をずっと続けています。

3年間の電車通勤の後、私は、小学校の管理職となるのですが、この出来事は、私の教員生活に大きな影響を与えてくれました。「人は、美しい所には、決してごみを捨てたりはしない。」という言葉が、私の学校経営の柱となっていくのです。教頭として1校3年間、校長として2校7年間、香川県教育センターの所長として2年間、管理職としての12年間、私は、この精神を基盤として、組織経営を行ってきたと言っても過言ではありません。「環境整備」を、経営の柱の中心にしたのです。

こんなことがあったのも、今から20年も前のことです。

今、高瀬駅は、駅舎の建て替えがされています。先日の休日に、久しぶりに電車に乗って出かける機会がありました。「さすがに、この状況では、生け花は…？」と、思いながら改札口を出ました。

私の目に飛び込んできたのは、ガラスのケースの中で、美しく咲いている「生け花」の姿でした。



【高瀬駅 改札口のショーケース】